

目 次

看護学部

<看護学科>	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	1
2. 授業科目の概要	5
3. 施設・設備の整備状況、経費	12
4. 既設大学等の状況	15
5. 教員組織の状況 (個人情報を含む内容につき、HPでの公表は割愛)	
6. 留意事項等に対する履行状況等	35
7. その他全般的事項	54

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

学校法人関東学院

(2) 大学名

関東学院大学

(3) 大学の位置

〒236-8501

神奈川県横浜市金沢区六浦東一丁目50番1号

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
理事長	(イイダ ヨシヒロ) 飯田 嘉宏 (平成21年11月)	(マスダ ヒデオ) 増田 日出雄 (平成25年4月)	変更の理由：健康上の理由による辞任 変更の時期：平成25年4月1日 報告年度：(25)
学長	(オオノ コウイチ) 大野 功一 (平成21年12月)	(キク ヒロヨシ) 規矩 大義 (平成25年12月)	変更の理由：任期満了に伴う交代 変更の時期：平成25年12月19日 報告年度：(26)
学部長	(ヤダ マミコ) 矢田 眞美子 (平成25年4月)		
学科長等	(サカナシ カオル) 坂梨 薫 (平成25年4月)		

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。

(例) 平成26年度に報告済の内容 → (26)

平成28年度に報告する内容 → (28)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載（昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正）するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
- ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称, 定員, 入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部の学科または研究科の専攻等, 定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。
- ・ なお, 課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は, 法令上規定されている最小単位(大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」)でも記載してください。その場合適宜各項目の表を追加してください。
- ・ 様式は, 平成25年度開設の4年制の学科の場合(平成28年度までの4年間)ですが, 開設年度・修業年限に合わせて作成してください。(修業年限が3年以下の場合には欄を削除し, 5年以上の場合には, 欄を設けてください。)

(5) - ① 調査対象学部等の名称, 定員

調査対象学部等の名称(学位)	設置時の計画				備考
	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	
看護学部 看護学科 学士(看護学)	4年	80人	- 年次人	320人	

- (注) ・ 定員を変更した場合は, 「備考」に変更前的人数, 変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。
- ・ 学生募集停止を予定している場合は, 「備考」にその旨記載してください。

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	対象年度		平成25年度		平成26年度		平成27年度		平成28年度		平均入学定員超過率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期		
A 入学定員	80人 (-) [-]	-	80人 (-) [-]	-	80人 (-) [-]	-	80人 (-) [-]	-	80人 (-) [-]	-	1.11倍	
志願者数	998 (-) [-]	-	1,064 (-) [-]	-	1,051 (-) [-]	-	991 (-) [-]	-	991 (-) [-]	-		
受験者数	932 (-) [-]	-	975 (-) [-]	-	960 (-) [-]	-	915 (-) [-]	-	915 (-) [-]	-		
合格者数	193 (-) [-]	-	362 (-) [-]	-	292 (-) [-]	-	359 (-) [-]	-	359 (-) [-]	-		
B 入学者数	84 (-) [-]	-	81 (-) [-]	-	83 (-) [-]	-	111 (-) [-]	-	111 (-) [-]	-		
入学定員超過率 B/A	1.05		1.01		1.03		1.38					

- (注) ・ 数字は, 平成28年5月1日現在の数字を記入してください。
- ・ ()内には, 編入学の状況について**外数**で記入してください。なお, 編入学を複数年次で行っている場合には, (())書きとするなどし, その旨を「備考」に付記してください。該当がない年には「-」を記入してください。
- ・ []内には, 留学生の状況について**内数**で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
- ・ 留学生については, 「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により, 我が国の大学(大学院を含む。), 短期大学, 高等専門学校, 専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
- ・ 短期交換留学生など, 定員内に含めていない学生については記入しないでください。
- ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は, 春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は, その他の学期欄は「-」を記入してください。また, その他の学期に入学定員を設けている場合は, 備考欄にその人数を記入してください。
- ・ 「入学定員超過率」については, **各年度の春季入学とその他を合計した入学定員, 入学者数で算出**してください。なお, 計算の際は小数点以下第3位を切り捨て, 小数点以下第2位まで記入してください。
- ・ 「平均入学定員超過率」には, 開設年度から提出年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。なお, 計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。

(5) -③ 調査対象学部等の在学者の状況

学年	対象年度		平成25年度		平成26年度		平成27年度		平成28年度		備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	[-] (-) 84	[-] (-) -	[-] (1) 82	[-] (-) -	[-] (1) 84	[-] (-) -	[-] (-) 111	[-] (-) -			
2年次	/		[-] (-) 82	[-] (-) -	[-] (-) 78	[-] (-) -	[-] (2) 84	[-] (-) -			
3年次			/		/		[-] (-) 79	[-] (-) -	[-] (3) 79	[-] (-) -	
4年次	/						/		/		[-] (-) 74
計			[-] (-) 84	[-] (-) -	[-] (1) 164	[-] (-) -					[-] (1) 241

- (注) ・ 数字は、平成28年5月1日現在の数字を記入してください。
- ・ []内には、留学生の状況について**内数**で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 - ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 - ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、**各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数**を記入してください。
 - ・ ()内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。

2 授業科目の概要

<看護学部 看護学科>

(1) 授業科目表

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数				専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由		教授	准教授	講師	助教	助手			
共通科目	キリスト教学	1春	2									兼1		
	哲学	1・2春		2								兼1		
	倫理学	1・2秋		2								兼1		
	心理学	1・2秋		2								兼1		
	ジェンダー論	1・2春		2								兼1		
	文学	1・2秋		2								兼1		
	美術史	1・2秋		2								兼1		
	文化人類学	1・2秋		2								兼1	担当者都合による配当変更(28)	
			1・2春											担当者都合による配当変更(27)
			1・2秋											
		教育学	1・2秋		2								兼1	担当者都合による配当変更(27)
			1・2春											
		経済学	1・2春		2								兼1	
		経営学	1・2秋		2								兼1	
		社会学	1・2秋		2								兼1	
		日本国憲法	1・2春		2								兼1	通常開講(26)
			未開講											履修希望者がいなかったため(25)
			1・2春											
		法と社会生活	1・2秋		2								兼1	
		科学史	1・2秋		2								兼1	
		生物と環境	1春		2								兼1	
		生物学	1春		2								兼2	
		化学基礎	1春		2								兼1	
		コンピュータ・リテラシー	1春	2									兼1	
		数値データ処理	1秋		2								兼1	
		KGUキャリアデザイン入門	1春		2		1							
		KGUキャリアデザイン基礎Ⅰ	1秋		2								兼1	
		KGUキャリアデザイン基礎Ⅱ	2春		2								兼1	全学共通キャリア教育科目開設に伴う科目追加(26)
	KGUキャリアデザイン応用Ⅰ	2春		2								兼1	全学共通キャリア教育科目開設に伴う科目追加(27)	
	KGUインターンシップ実習	3通		2								兼1	全学共通キャリア教育科目開設に伴う科目追加(27)	
外国語分野	英語(リーディング)ⅠA	1春	1									兼1	担当者変更及び担当者間での担当科目の調整に伴う変更(26)	
	英語(リーディング)ⅠB	1秋	1									兼2	担当者変更及び担当者間での担当科目の調整に伴う変更(26)	
	英語(オーラル)ⅠA	1春	1									兼1	担当者変更及び担当者間での担当科目の調整に伴う変更(26)	
	英語(オーラル)ⅠB	1秋	1									兼2	担当者変更及び担当者間での担当科目の調整に伴う変更(26)	
	英語(リーディング)ⅡA	1春		1								兼1		
	英語(リーディング)ⅡB	1秋		1								兼1		
	英語(オーラル)ⅡA	1春		1								兼1		
	英語(オーラル)ⅡB	1秋		1								兼1		
	ドイツ語ⅠA	1春		1			1							
	ドイツ語ⅠB	1秋		1			1							
	ドイツ語ⅡA	1春		1								兼1		
	ドイツ語ⅡB	1秋		1								兼1		
	ドイツ語ⅢA	2・3・4春		1			1							
	ドイツ語ⅢB	2・3・4秋		1			1							
	中国語ⅠA	1春		1								兼1		
	中国語ⅠB	1秋		1								兼1		
	中国語ⅡA	1春		1								兼1		
	中国語ⅡB	1秋		1								兼1		
ハングルⅠA	1春		1								兼1			
ハングルⅠB	1秋		1								兼1			
ハングルⅡA	1春		1								兼1			
ハングルⅡB	1秋		1								兼1			

科目 区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数			専任教員等の配置					備 考			
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手				
共通科目	体 育 分 健	健康スポーツⅠ	1	春		1						兼 3 2	クラス増に伴う担当者追加(28)	
		健康スポーツⅡ	1	秋		1						兼 1		
	そ の 他 分 野	海外語学演習(英語)	1	春・秋			2						兼 1	教育内容の充実のため(短期留学の 成果を認定する)科目追加(27) 教育内容の充実のため(短期留学の 成果を認定する)科目追加(27) 教育内容の充実のため(短期留学の 成果を認定する)科目追加(27) 教育内容の充実のため(短期留学の 成果を認定する)科目追加(27) 教育内容の充実のため(短期留学の 成果を認定する)科目追加(27) 全学共通科目開設に伴う科目の追加 (28) 全学共通科目開設に伴う科目の追加 (28) 全学共通科目開設に伴う科目の追加 (28) 全学共通科目開設に伴う科目の追加 (28) 全学共通科目開設に伴う科目の追加 (28) 全学共通科目開設に伴う科目の追加 (28) 全学共通科目開設に伴う科目の追加 (28) 全学共通科目開設に伴う科目の追加 (28) 全学共通科目開設に伴う科目の追加 (28)
		海外語学演習(中国語)	1	春・秋			2						兼 1	
		海外語学演習(韓国語)	1	春・秋			2						兼 1	
		海外語学演習(フランス語)	1	春・秋			2						兼 1	
		海外語学演習(ドイツ語)	1	春・秋			2						兼 1	
		KGUかながわ学(行政)	1・2・3・4	春			2						兼 1	
		KGUかながわ学(経済)	1・2・3・4	春			2						兼 1	
		KGUかながわ学(政治)	1・2・3・4	秋			2						兼 1	
		KGUかながわ学(スポーツ)	1・2・3・4	秋			2						兼 1	
		KGUかながわ学(歴史・文化)	1・2・3・4	秋			2						兼 1	
		KGUかながわ学(自然)	1・2・3・4	春			2						兼 1	
		KGUかながわ学(健康)	1・2・3・4	秋			2						兼 1	
		KGUかながわ学(地域づくり)	1・2・3・4	秋			2						兼 1	
KGUかながわ学(地域安全)	1・2・3・4	春			2						兼 1			

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数				専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由		教授	准教授	講師	助教	助手				
専門基礎	身体の構造と機能Ⅰ	1春	1									兼1			
	身体の構造と機能Ⅱ	1秋	1									兼1			
	身体の構造と機能Ⅲ	1秋	1									兼1			
	生化学	1秋	1									兼1			
	薬と生体反応（臨床薬理学）	2春	1									兼2 兼1	オムニバス 教育効果を考慮して 担当者の追加(27)		
	感染と免疫（微生物学）	1秋	1										兼1		
	健康と栄養	2春	1										兼1		
	病理・病態学	2春	1										兼1		
	臨床心理学	2春	1	1									兼1		
	疾病と治療ⅠA（内科的治療）	2春	1										兼4	オムニバス	
	疾病と治療ⅠB（内科的治療）	2秋	1										兼5	オムニバス	
	疾病と治療ⅡA（外科的治療）	2春	1										兼4	オムニバス	
	疾病と治療ⅡB（外科的治療）	2秋	1										兼7 兼6	オムニバス 追加教育内容充実のため 担当者の追加(26)	
	疾病と治療Ⅲ（小児）	2秋	1										兼4 兼2	オムニバス 追加教育内容充実のため 担当者の追加(26)	
	疾病と治療Ⅳ（精神）	3春	1										兼1		
	フィジカルアセスメント	3春	1				1						兼2 兼1	オムニバス 担当者の追加（平成27年4月AC教員 審査済 判定可）(28)	
	臨床検査	2秋	1		1								兼3 兼4 兼6	オムニバス 担当者辞任に伴う減員(27) 担当者辞任に伴う減員(26)	
	専門科目	健康論	1春	1										兼1	
		生涯発達学	2春	1										兼1	
		対人関係論	2春	1	1									兼1	
対人関係論演習		2秋	1	1									兼1		
社会保障制度		2春	1										兼1		
保険福祉行政論		2秋	1										兼1		
公衆衛生		2春	1										兼1		
保健医療統計学		2春	1										兼1		
医療安全学		3春	1	1									兼1		
看護の基礎	看護の知への誘い	1春	1			1							兼1		
	ひとと環境	1春	1			1	4						兼1	准教授1名が教授に昇任（平成27年1 月 AC教員審査済 判定可）(27)	
	ひとと生活	1春	1			1		1					兼1	オムニバス	
	看護理論Ⅰ	1秋	1			1							兼1	オムニバス	
	基礎看護学方法論	1秋	1			1	4	2 +	4				兼1	辞任助教の後任講師1名採用（平成 28年1月 AC教員審査済 判定可）に よる担当者増(28) 准教授1名が教授に昇任（平成27年1 月 AC教員審査済 判定可）(27) 助教1名辞任による担当者減(27)	
	基礎看護技術Ⅰ	1秋	1			1	4	2 +	4	1			兼1	辞任助教の後任講師1名採用（平成 28年1月 AC教員審査済 判定可）に よる担当者増(28) 准教授1名が教授に昇任（平成27年1 月 AC教員審査済 判定可）(27) 助教1名辞任による担当者減(27)	
	基礎看護技術Ⅱ	2春	2			1	4	2 +	4	1	兼4		兼4	准教授1名が教授に昇任（平成27年1 月 AC教員審査済 判定可）(27) 担当者（助教）退職し、兼任として 担当(27)	
	基礎看護技術Ⅲ	2秋	2			1	4	2 +	4	1			兼1	辞任助教の後任講師1名採用（平成 28年1月 AC教員審査済 判定可）に よる担当者増(28) 准教授1名が教授に昇任（平成27年1 月 AC教員審査済 判定可）(27) 担当者（助教）退職による担当者減 (27)	
看護過程論	2秋	1			1		1					兼1	オムニバス		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
看護の基礎	生活支援看護学 初期体験実習	1 秋	1			2 +	+	2 +	+	6	辞任助教の後任講師1名採用（平成28年1月 AC教員審査済 判定可）による担当者増（28） 准教授1名が教授に昇任（平成27年1月 AC教員審査済 判定可）（27） 担当者（助教）退職による担当者減（27）	
	生活援助実習Ⅰ	2 春	1			2 +	+	2 +	+	10	辞任助教の後任講師1名採用（平成28年1月 AC教員審査済 判定可）による担当者増（28） 准教授1名が教授に昇任（平成27年1月 AC教員審査済 判定可）（27） 担当者（助教）退職による担当者減（27）	
	生活援助実習Ⅱ	2 秋	1			2 +	+	2 +	+	4	辞任助教の後任講師1名採用（平成28年1月 AC教員審査済 判定可）による担当者増（28） 准教授1名が教授に昇任（平成27年1月 AC教員審査済 判定可）（27） 担当者（助教）退職による担当者減（27）	
専門科目 看護の展開	療養支援看護学 成人看護学概論	2 秋	1			1					オムニバス 担当者（教授）退職。後任准教授1名採用（平成27年1月 AC教員審査済 判定可）（27）	
	慢性期看護論Ⅰ	2 秋	1			1 2	1				オムニバス 担当者（教授）退職。後任准教授1名採用（平成27年1月 AC教員審査済 判定可）（27）	
	慢性期看護論Ⅱ	3 春	1			1 2	1				オムニバス 担当者（教授）退職。後任准教授1名採用（平成27年1月 AC教員審査済 判定可）（27）	
	治療回復看護論Ⅰ	2 秋	1			1	1 2				オムニバス 准教授1名が教授に昇任（平成27年1月 AC教員審査済 判定可）（27）	
	治療回復看護論Ⅱ	3 春	1			1	1 +				オムニバス 科目内容充実のため担当者（准教授）1名追加（平成28年1月AC教員審査済 判定可）（28） 准教授1名が教授に昇任（平成27年1月 AC教員審査済 判定可）（27）	
	クリティカルケア看護論	4 春		1			1					
	緩和ケア看護論	4 秋 4 春		1			1	1 2			オムニバス 教育効果の観点から配当変更（28） 准教授1名が教授に昇任（平成27年1月 AC教員審査済 判定可）（27）	
	成人看護学演習	3 春	1			2	2		1	2		
	成人看護学実習Ⅰ	3 春	1			2	2		1	6		
	成人看護学実習Ⅱ	3 秋	3			2	2		1	1		
	成人看護学実習Ⅲ	4 春	2			2	2		1	2		
	老年看護学	老年看護学概論	2 春	1			1					オムニバス
		老年看護学援助論Ⅰ	2 秋	1			1	1				オムニバス
老年看護学援助論Ⅱ		3 春	1			1	1				オムニバス	
老年看護学演習		3 春	1			1	1		1	2	演習・実習科目充実のため助教新規採用（平成27年1月 AC教員審査済 判定可）（27）	
老年看護学実習Ⅰ		2 秋	1			1	1		1	6	演習・実習科目充実のため助教新規採用（平成27年1月 AC教員審査済 判定可）（27）	
老年看護学実習Ⅱ		3 春	1			1	1		1	3	演習・実習科目充実のため助教新規採用（平成27年1月 AC教員審査済 判定可）（27）	
老年看護学実習Ⅲ		3 秋	2			1	1		1	3	演習・実習科目充実のため助教新規採用（平成27年1月 AC教員審査済 判定可）（27）	
小児看護学	小児看護学概論	2 秋	1			1						
	小児看護学援助論	3 春	2			1						
	小児看護学演習	3 春	1			1			1	1		
	小児看護学実習	3 秋	2			1			1	1		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
看護の展開	母性看護学 母性看護学概論	2秋	1			1						オムニバス 科目内容の充実のため担当者(助教)1名新規採用(平成28年1月AC教員審査済 判定可)(28)
	母性看護学 母性看護学援助論	3春	2			1	1					
母性看護学 母性看護学演習	3春	1			1	1		2	1			
母性看護学 母性看護学実習	3秋	2			1	1		2	1			
精神看護学	精神看護学概論	2秋	1				1					
	精神看護学援助論	3春	2				1					
	精神看護学演習	3春	1				1		1	1		
	精神看護学実習	3秋	2				1		1	3		
在宅看護学	在宅看護概論	3春	1			1						教育内容充実のための 担当者の追加(26) 看護師学校指定申請審査時の 意見による変更(25)
	在宅看護援助論	4春	2			1						
	在宅看護演習	4春	1			1			1	1		
	地域看護学概論	2春	1	1							2	
	在宅看護実習Ⅰ	3秋	1			1			1	5		
	在宅看護実習Ⅱ	4春	1			1			1	4		
専門科目 看護学の統合と実践 看護学の発展と探求	感染看護学	2春	1									兼 1
	家族看護学	2秋		1		5	1					兼 1
	論文講読	4春	1			8	5	2				
	看護理論Ⅱ	4春		1		1						
	看護研究方法論	4春	1			1	2	1	1			
	看護管理論	4春		1		2	1					
	看護政策論	4春		1								兼 1
	リカレント教育論	4秋		1		2	1					
	災害看護論	4春		1								兼 1
	国際看護論	4春		1								兼 1
	保険医療福祉連携論	4春		1								兼 1
	統合看護実習	4通	2			8	5	2	7	10		
	卒業研究	4通	2			8	5	2	1			

- (注) ・ 認可申請書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
- ・ 設置認可時の授業科目全て(兼任、兼任教員が担当する科目を含む。)を黒字で記載してください。その上で、前年度報告時(平成27年度に認可(届出)された大学等は設置認可(届出)時より変更されているものは赤字見え消し修正し、「備考」に赤字で理由・変更年月等を記入してください。
 - ・ なお、昨年度の報告書において赤字で見え消した部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・ 兼任、兼担の教員が担当する授業科目については、備考欄に担当する教員数を「兼〇」と記入してください。
 - ・ 授業科目を追加又は内容を変更する場合で、専任教員が担当するため教員審査が必要なものについては、「専任教員採用等設置計画変更書」の審査予定年月等を「備考」に記入してください。(今後審査を受ける場合には、「平成〇年〇月 提出予定」と記入してください。)
 - ・ 「配当年次」について、設置認可申請時に開講時期を記入する必要がなかった学部等(平成19年度認可以前)についても、設置認可時の状況を黒字で記入してください。また、前年度報告時より修正があれば、赤字で見え消し修正をしてください。
 - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても記入してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計	必修	選択	自由	計	
科目	科目	科目	科目	科目	科目	科目	科目	
77	56	0	133	78	58 56 55	14 5 0	150 141 134 133	
				[1]	[2] [- 0] [Δ1]	[14] [- 5] [- 0]	[17] [- 8] [1] [- 0]	

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[]内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：Δ1)
- ・ 資格に関する課程など、別課程としている授業科目については算入する必要はありません。

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由, 代替措置の有無
1	該当なし					
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあった授業科目が配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については、記入しないでください。
 - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由, 代替措置の有無
1	該当なし					
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{0}{133} = \boxed{0}$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位までを記入してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備 考
(1)	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	
	校舎敷地	251,341.83 250,351.44 m ²	0.00 m ²	26,381.89 m ²	277,723.72 276,733.33 m ²	<ul style="list-style-type: none"> ・左記のうち、871.00 m²借用 貸与期間：平成元年12月7日から30年間(28) ・左記のうち、1,090.80 m²借用 貸与期間：平成17年4月1日から30年間(28) ・釜利谷校地のうち、23,515.00 m²を関東学院高等学校774名、関東学院中学校774名と共用 ・葉山セミナーハウス敷地売却に伴う校地減少(26) ・旧幼稚園舎跡地の大学への移管による、専用校舎敷地、運動場用地の変更(28) (校舎敷地990.39 m²増、運動場用地1,076.97 m²増) ・隣地購入による専用その他の変更(28) (1,100.67 m²増) ・別地売却による共有する他の学校等の専用運動場用地の変更(28) (883.24 m²減)
	運動場用地	78,204.49 77,127.52 m ²	23,515.00 m ²	13,666.31 14,549.55 m ²	115,385.80 115,192.07 m ²	
	小 計	329,546.32 327,478.96 m ²	23,515.00 m ²	40,048.20 40,931.44 m ²	393,109.52 391,925.40 m ²	
	そ の 他	7,554.89 6,454.22 12,258.22 m ²	0.00 m ²	0.00 m ²	7,554.89 6,454.22 12,258.22 m ²	
	合 計	337,101.21 333,933.18 339,737.18 m ²	23,515.00 m ²	40,048.20 40,931.44 m ²	400,664.41 398,379.62 404,183.62 m ²	
(2) 校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	
		144,288.00 135,963.64 136,010.97 m ²	0.00 m ²	0.00 m ²	144,288.00 135,963.64 136,010.97 m ²	<ul style="list-style-type: none"> 建築・環境棟の設計変更に伴う変更(25) 当該学部に関わらない既設校舎改修に伴う用途の変更(28)
		(132,213.37 m ²)	(0.00 m ²)	(0.00 m ²)	(132,213.37 m ²)	

(3) 教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体			
	141 室 133 室 132 室	101 室 102 室 88 室 89 室	190 室 175 室 189 室 187 室	27 室 28 室	9 室		当該学部に関わらない 既設校舎改修に伴う用途の変更 (26) (28)		
(4) 専任教員研究室		新設学部等の名称		室数					
		看護学部 看護学科		23 室					
(5) 図書・設備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕 種	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	大学全体の共用分 ・図書 約1,416,000冊 [約409,000冊] 約1,406,000冊 [約407,000冊] 約1,380,000冊 [約400,000冊] 1,290,000冊 [390,000冊] ・学術雑誌 約25,000種 [約15,054種] 22,280種 [12,270種] 学術雑誌のうち 電子ジャーナル 約11,000種 [約11,000種] 8,480種 [8,470種] ・視聴覚資料 約11,000点 約10,000点 5,300点 ・データベース 37種 [15種] 32種 [15種] 21種 [8種] 15種 [6種] 教育用図書・器具を充実したことによる変更 (25) (26) (27) (28)	
	看護学部 看護学科	3,760 [360] (5,033 [376]) (4,104 [326]) (2,694 [296]) (2,572 [186]) (1,980 [180])	98 [57] (113 [58]) (112 [57]) (98 [57])	43 [43] (44 [44]) (43 [43])	50 (106) (87) (44) (30)	3,975 (4,011) (3,993) (3,975)	109 (109)		
	計	3,760 [360] (5,033 [376]) (4,104 [326]) (2,694 [296]) (2,572 [186]) (1,980 [180])	98 [57] (113 [58]) (112 [57]) (98 [57])	43 [43] (44 [44]) (43 [43])	50 (106) (87) (44) (30)	3,975 (4,011) (3,993) (3,975)	109 (109)		
(6) 図書館	面積		閲覧座席数		収納可能冊数		大学全体		
	14,808.27㎡		1,408席		1,609,723冊				
(7) 体育館	面積		体育館以外のスポーツ施設の概要					大学全体	
	7,237.77㎡		野球場1面、陸上競技場1面、テニスコート10面						
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区分	開設年度	完成年度	区分	開設前年度	開設年度	完成年度	出張費等研究費単価の見直しによる (27) (28) 「教員1人当り研究費等」は、予算額の変更による。(25)
		教員1人当り研究費等	408千円 373千円	376千円 430千円 484千円	図書購入費	18,422千円	11,027千円	5,669千円	
	共同研究費等	0千円	0千円	設備購入費	185,062千円	1,367千円	5,299千円		
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		
		1,830千円	1,550千円	1,550千円	1,550千円	—千円	—千円		
	学生納付金以外の維持方法の概要		手数料収入および資産運用収入から充当する。						

- (注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)
- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
 - ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には平成28年5月1日現在の数値を記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(28)」を「備考」に赤字で記入してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消した部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。

4 既設大学等の状況

大学の名称	関東学院大学							備考	
既設学部等の名称	修業年限	入学員	編入学員	収容員	学位又は称号	平均入学定員超過率	開年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍			
文学部 現代社会学科	4	-	-	-	学士 (社会学)	-	昭和 43年度	神奈川県 横浜市金沢区 釜利谷南 三丁目22番2号	文学部現代社会学科 については 平成27年4月より学 生募集停止
国際文化学部 英語文化学科	4	130	3年次 2	524	学士 (英語文化)	1.05 1.12	昭和 43年度	神奈川県 横浜市金沢区 釜利谷南 三丁目22番2号	国際文化学部 平成27年4月 文学 部より名称変更
比較文化学科	4	130	3年次 2	524	学士 (比較文化)	0.98	平成 14年度		英語文化学科 平成27年4月 英語英米文学科から 名称変更
社会学部 現代社会学科	4	180	3年次 2	360	学士 (社会学) 又は 学士 (社会福 祉学)	1.09 1.09	平成 27年度	神奈川県 横浜市金沢区 釜利谷南 三丁目22番2号	
経済学部 経済学科	4	333	3年次 2	1,336	学士 (経済学)	1.12 1.15	昭和 24年度	神奈川県 横浜市金沢区 六浦東 一丁目50番1号	
経営学科	4	333	3年次 2	1,336	学士 (経営学)	1.10	昭和 37年度		
法学部 法学科	4	330	-	1,320	学士 (法学)	0.73 0.73	平成 3年度	神奈川県 小田原市荻窪 1162番地2	

大学の名称	関東学院大学								備考
既設学部等の名称	修業 年限	入 定 学 員	編入学 定 員	収 定 容 員	学位又 は称号	平均入学 定員 超過率	開 年 設 度	所 在 地	
	年	人	年次 人	人		倍			
工学部								神奈川県 横浜市金沢区 六浦東 一丁目50番1号	工学部については 平成25年4月より学 生募集停止
機械工学科	4	-	-	-	学士 (工学)	-	昭和 24年度		
電気電子情報工学科	4	-	-	-	学士 (工学)	-	昭和 25年度		
情報ネット・メディア工学科	4	-	-	-	学士 (工学)	-	平成 16年度		
建築学科	4	-	-	-	学士 (工学)	-	昭和 24年度		
社会環境システム学科	4	-	-	-	学士 (工学)	-	昭和 31年度		
物質生命科学科	4	-	-	-	学士 (工学)	-	昭和 35年度		
理工学部						1.10		神奈川県 横浜市金沢区 六浦東 一丁目50番1号	
理工学科		438	3年次 2	1,756	学士 (理工学)	1.10	平成 25年度		
生命学系	4	48		192		1.10			
数物学系	4	20		80		1.11			
化学学系	4	48		192		1.13			
機械学系	4	98		392		1.08			
電気学系	4	68		272		1.09			
情報学系	4	108		432		1.09			
土木学系	4	48		192		1.15			
建築・環境学部						1.10		神奈川県 横浜市金沢区 六浦東 一丁目50番1号	
建築・環境学科	4	130	3年次 2	524	学士 (建築・ 環境学)	1.10	平成 25年度		

大学の名称	関東学院大学							備考	
既設学部等の名称	修業年限	入学員	編入学員	収容量	学位又は称号	平均入学定員超過率	開設年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍			
人間環境学部								神奈川県 横浜市金沢区 六浦東 一丁目50番1号	人間環境学部 現代コミュニケーション学科 及び人間環境デザイン 学科については 平成28年4月より学 生募集停止
現代コミュニケーション学科	4	-	-	-	学士 (コミュニケーション学)	-	平成 14年度		
人間環境デザイン学科	4	-	-	-	学士 (人間環境学)	-	平成 14年度		健康栄養学科及び人 間発達学科について は 平成27年4月より学 生募集停止
健康栄養学科	4	-	-	-	学士 (健康栄養学)	-	平成 14年度		
人間発達学科	4	-	-	-	学士 (人間発達学)	-	平成 14年度		
人間共生学部						1.13		神奈川県 横浜市金沢区 六浦東 一丁目50番1号	
コミュニケーション学科	4	140	3年次 2	140	学士 (コミュニケーション学)	1.15	平成 28年度		
共生デザイン学科	4	90	3年次 2	90	学士 (デザイン学)	1.08	平成 28年度		
栄養学部						1.13		神奈川県 横浜市金沢区 六浦東 一丁目50番1号	
管理栄養学科	4	100	-	200	学士 (栄養学)	1.13	平成 27年度		
教育学部						1.02		神奈川県 横浜市金沢区 六浦東 一丁目50番1号	
こども発達学科	4	140	-	280	学士 (教育学)	1.02	平成 27年度		
看護学部						1.11		神奈川県 横浜市金沢区 六浦東 一丁目50番1号	
看護学科	4	80	-	320	学士 (看護学)	1.11	平成 25年度		

大学の名称	関東学院大学								備考
既設学部等の名称	修業年限	入学員	編入学員	収容量	学位又は称号	平均入学定員超過率	開年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍			
文学研究科 (博士前期課程)						0.08		神奈川県 横浜市金沢区	
英語英米文学専攻	2	8	-	16	修士(文学)	0.12	平成5年度	釜利谷南 三丁目22番2号	
比較日本文化専攻	2	8	-	16	修士(文学)	0.12	平成18年度		
社会学専攻	2	8	-	16	修士(社会学)	0.00	平成7年度		
(博士後期課程)						0.42			
英語英米文学専攻	3	3	-	9	博士(文学)	0.00	平成8年度		
比較日本文化専攻	3	2	-	6	博士(文学)	0.83	平成20年度		
社会学専攻	3	2	-	6	博士(社会学)	0.66	平成9年度		
経済学研究科 (博士前期課程)						0.22		神奈川県 横浜市金沢区	
経済学専攻	2	10	-	20	修士(経済学)	0.35	昭和41年度	六浦東 一丁目50番1号	
経営学専攻	2	10	-	20	修士(経営学)	0.10	平成6年度		
(博士後期課程)						0.13			
経済学専攻	3	5	-	15	博士(経済学)	0.13	平成11年度		
経営学専攻	3	5	-	15	博士(経営学)	0.13	平成8年度		
法学研究科 (博士前期課程)						0.06		神奈川県 小田原市荻窪	
法学専攻	2	8	-	16	修士(法学)	0.06	平成7年度	1162番地2	
(博士後期課程)						0.00			
法学専攻	3	2	-	6	博士(法学)	0.00	平成9年度		

大学の名称	関東学院大学								備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学員定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	開設年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍			
工学研究科 (博士前期課程)						0.83		神奈川県 横浜市金沢区	工学研究科博士前期課程 平成28年度入学定員減 機械工学専攻、電気工学専攻、土木工学専攻(Δ1) 建築学専攻(Δ2)
機械工学専攻	2	7	-	15	修士(工学)	0.89	昭和41年度	六浦東 一丁目50番1号	
電気工学専攻	2	7	-	15	修士(工学)	0.39	昭和43年度		
情報学専攻	2	3	-	3	修士(工学)	1.00	平成28年度		
建築学専攻	2	10	-	22	修士(工学)	0.59	昭和41年度		
土木工学専攻	2	5	-	11	修士(工学)	0.89	昭和43年度		
物質生命科学専攻	2	12	-	24	修士(工学)	1.29	昭和41年度		
(博士後期課程)						0.54			
電気工学専攻	3	-	-	-	博士(工学)	-	平成9年度		
建築学専攻	3	3	-	11	博士(工学)	0.27	昭和52年度		
工業化学専攻	3	-	-	-	博士(工学)	-	平成7年度		
総合工学専攻	3	7	-	7	博士(工学)	0.85	平成28年度		
法務研究科 実務法学専攻 (専門職学位課程)	3	-	-	-	法務博士(専門職)	-	平成16年度	神奈川県 横浜市金沢区 六浦東 一丁目50番1号	

- (注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者(学校法人等)が設置している全ての大学(学部, 学科), 大学院(専攻)及び短期大学(学科)(AC対象学部等含む)について, それぞれの学校種ごとに, 平成28年5月1日現在の上記項目の情報を記入してください。
- ・学部の学科または研究科の専攻等, 「入学定員を定めている組織」ごとに記入してください。
 ※「入学定員を定めている組織ごと」には, 課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
 ※なお, 課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は, 法令上規定されている組織上の最小単位(大学であれば「学科」, 短期大学であれば「専攻課程」)でも記載してください。
 - ・専攻科に係るものについては, 記入する必要はありません。
 - ・AC対象学部等についても必ず記入してください。
 - ・「平均入学定員超過率」には, 標準修業年限に相当する期間における入学定員に対する入学者の割合の平均の小数点以下第2位まで(小数点以下第3位を切り捨て)を記入してください。
 - ・学生募集を停止している学部等がある場合, 入学定員・収容定員・平均入学定員超過率は「-」とし, 「備考」に「平成〇〇年より学生募集停止」と記入してください。

6 留意事項等に対する履行状況等

区 分	留 意 事 項 等	履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
設 置 時 (平成25年5月)	1. 「豊かな人間性を 培い、学生一人ひとり に向き合う対話型の教 育、少人数教育、そし て経験学習重視の教育 によって、学生の個性 と知性を磨き、看護専 門職として主体的に自 立して専門性を発揮す るための看護実践知、 さらに他職種間で共同 し地域社会と連携する ための実践知を養い育 てる」という高い教育 研究上の目的と身に付 けさせるべき7つの資 質や能力等を掲げている ことから、その目的 が確実に達成されるよ う、専門科目、実習科 目を中心に教育課程を 不断に検証しつつ、特 色ある教育課程の充実 に努めること。	留意事項 教育研究上の目的が確実に 達成されるよう、専門科 目、実習科目を中心に教育 課程を不断に検証しつつ、 特色のある教育課程の充実 に努めるために、以下のこ とを行った。 1) 専門科目の授業担当 となる専任教員に対して、 設置認可後の12月22日に協 議会を開催し、共通理解を 図った。特に、「教育課程 の編成の考え方及び特色」 については、身につけさせ るべき7つの資質や能力等 と科目区分（共通科目並び に専門基礎、看護の基礎、 看護の展開及び看護学の統 合の4分野から編成された 専門科目）の考え方につい てや看護学部教育課程の構 成及び履修順序（表）と教 育課程の概要（表）との関 連について説明を行った。 さらに、教育研究上の目的 が確実に達成されるよう、 専門科目、実習科目を中心 に教育課程を不断に検証し つつ、特色のある教育課程 の充実努めることの必要 性についても周知した。 2) 共通科目、専門基礎 科目の授業担当となる非常 勤講師と兼任教員に対し て、3月9日に説明会を開催 し、設置の趣旨、教育研究 上の目的、教育課程の編成 の考え方及び特色（7つの 資質と能力等と科目区分の 考え方、各授業科目の配 当）についてスライド（ス ライド資料配布）で説明す るとともに、教育課程の概 要（表）を配布し、看護学 部教育課程の概要について の周知を図った。 なお、来年度授業開始とな る非常勤講師と兼任教員に 対しては、秋頃に打ち合わ せの機会を設ける予定であ る。加えて、今年度3月には 非常勤講師・兼任教員と 専任教員の懇談会を開催 し、今年度の評価および次 年度に向けての意見交換の 機会を設ける予定である。	

区 分	留 意 事 項 等	履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
設 置 時 (平成25年5月)	(前頁の続き)	<p>3) 今年度授業開始となる看護の基礎(生活支援看護学領域)の授業科目について、開設前の12月と1月に生活支援看護学領域の教員(就任予定)による検討会を2回開催し、教育課程編成上の考え方と位置づけに基づいて授業計画及び内容についての検討を行った。開設後は、4月18日に第1回の生活支援看護学領域会議を開催し、春学期開講の3科目(看護の知への誘い、ひとと環境、ひとと生活)の授業計画(授業内容・方法)の検討・共有を図るとともに、秋学期開講の初期体験実習の実習計画について検討した。定例の領域会議において、春学期開講の授業科目の進捗について報告・検討するとともに、今年度秋学期開講科目の授業計画の検討を計画的に進めていく予定である。</p> <p>4) 教育課程の理念と教育研究上の目的及び教育目標、教育内容・方法について共有し、特色ある教育課程の充実に努めるために、4月10日開催の第1回看護学部教務委員会において、下部組織にカリキュラム推進ワーキングを設置した。今後はカリキュラム推進ワーキングを中心に教育目的と教育目標、各授業科目の概要(位置づけ、到達目標、テーマ、授業内容、方法等)、科目間の関連等について協議し、各看護学領域における授業科目の検討と連動しながら各授業科目の充実・改善を図る予定である。(25)</p>	

区 分	留 意 事 項 等		履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
設 置 時 (平成25年5月)	(前頁の続き)		<p>1. 「豊かな人間性を培い、学生一人ひとりに向き合う対話型の教育、少人数教育、そして経験学習重視の教育によって、学生の個性と知性を磨き、看護専門職として主体的に自立して専門性を発揮するための看護実践知、さらに他職種間で共同し地域社会と連携するための実践知を養い育てる」という高い教育研究上の目的と身に付けさせるべき7つの資質や能力等を掲げていることから、その目的が確実に達成されるよう、専門科目、実習科目を中心に教育課程を不断に検証しつつ、特色ある教育課程の充実に努めること。教育研究上の目的が確実に達成されるよう、専門科目、実習科目を中心に教育課程を不断に検証しつつ、特色のある教育課程の充実に努めるために、以下のことを行った。</p> <p>1) 教育課程の理念と教育研究上の目的及び教育目標、教育内容・方法について共有し、特色ある教育課程の充実に努めるために、昨年4月10日開催の第1回看護学部教務委員会において、下部組織にカリキュラム推進ワーキングを設置した。昨年度は、ワーキング活動において、3回(7月、9月、12月)に亘り、教育課程に関する研修会を実施した。なお、各研修会の目標は以下のとおり。</p>	

区 分	留 意 事 項 等		履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
設 置 時 (平成25年5月)	(前頁の続き)		<ul style="list-style-type: none"> ・ (第1回) 教育研究上の目的「7つの資質と能力等」について理解を深める。 ・ (第2回) 教育課程におけるカリキュラム・ポリシーの具体化を検討し、共有化する。 ・ (第3回) カリキュラム・ポリシーを具現化した専門領域の教育課程を共有化する。 <p>この研修を通して、教育課程、専門領域における教育課程及び関連科目との関連等の具現化について検討し、共有化を深めるとともに、科目ごとの関連性や学修の積み上げの具現化の共有化を図り、本学部が目指す教育課程と、どのような2) 兼任講師・兼任教員との共有においては、看護教育懇談会を9月21日(第1回)と2月28日(第2回)に開催した。この懇談会において、本学の教育理念・目標・カリキュラムの概要、カリキュラム概要(教育理念・目標)と学生の履修状況や相互の教育実践についての共通理解を図った。(26)</p>	

区 分	留 意 事 項 等	履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
設 置 時 (平成25年5月)	(前頁の続き)	<p>1. 「豊かな人間性を培い、学生一人ひとりに向き合う対話型の教育、少人数教育、そして経験学習重視の教育によって、学生の個性と知性を磨き、看護専門職として主体的に自立して専門性を発揮するための看護実践知、さらに他職種間で共同し地域社会と連携するための実践知を養い育てる」という高い教育研究上の目的と身に付けさせるべき7つの資質や能力等を掲げていることから、その目的が確実に達成されるよう、専門科目、実習科目を中心に教育課程を不断に検証しつつ、特色ある教育課程の充実に努めること。教育研究上の目的が確実に達成されるよう、専門科目、実習科目を中心に教育課程を不断に検証しつつ、特色のある教育課程の充実に努めるために、以下のことを行った。</p> <p>1) 昨年度はカリキュラム推進ワーキングの活動内容をFD委員会の下に継続して実施することにした。FD委員会では、2014年度に開講した看護専門科目について「教育内容・方法の共通理解をはかる～開設2年目の授業を通して～」をテーマとするFD研修会を1月に開催し、各看護専門領域が担当する2年次科目の教育内容・方法と学生の学修状況を共有化した。教務委員会の活動として、学部専任教員が担当する全ての専門科目について、4年次までの教育を見据えた授業計画検討とシラバス作成が可能となるよう、4年次までの時間割のシミュレーションを行うとともに3年次・4年次科目のシラバス（概要）作成を9月～10月に行った。</p>	

区 分	留 意 事 項 等		履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
設 置 時 (平成25年5月)	(前頁の続き)		2) 兼任講師・兼任教員との共有においては、2014及び2015年度の兼任講師・兼任教員及び看護学科専任教員、事務職員の参加する看護教育懇談会を、2015年3月5日(第1回)に開催した。 この懇談会において、昨年度に引き続き、本学のカリキュラム概要(教育理念・目標・教育課程編成の考え方)及び学生の学修状況や相互の教育実践について共通理解を図り、カリキュラムの現状と今後の課題について相互理解を深めた。 (27)	

区 分	留 意 事 項 等	履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
設 置 時 (平成25年5月)	(前頁の続き)	<p>1. 「豊かな人間性を培い、学生一人ひとりに向き合う対話型の教育、少人数教育、そして経験学習重視の教育によって、学生の個性と知性を磨き、看護専門職として主体的に自立して専門性を発揮するための看護実践知、さらに他職種間で共同し地域社会と連携するための実践知を養い育てる」という高い教育研究上の目的と身に付けさせるべき7つの資質や能力等を掲げていることから、その目的が確実に達成されるよう、専門科目、実習科目を中心に教育課程を不断に検証しつつ、特色ある教育課程の充実に努めること。教育研究上の目的が確実に達成されるよう、専門科目、実習科目を中心に教育課程を不断に検証しつつ、特色のある教育課程の充実に努めるために、以下のことを行った。</p> <p>1) 2014年度からカリキュラム推進ワーキングの活動内容をFD委員会の下で継続して実施している。FD委員会では2015年度は、“看護過程の授業、実習における学習目標と学習内容及び到達状況を共有し、今後の授業、実習における指導に役立てる”ことを目的に「看護過程（授業、実習）に関する情報交換会～各看護学領域の授業目標・授業内容・到達度～」をテーマとするFD研修会を10月に開催した。当看護学部の卒業時の看護過程の修得目標について共有化するとともに各看護学領域の授業及び実習の到達目標と内容について共有化した。なお、この研修会の記録を今後のカリキュラム改正等の資料として活用することとしている。</p>	

区 分	留 意 事 項 等		履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
設 置 時 (平成25年5月)	(前頁の続き)		<p>2) 兼任講師・兼任教員との共有については、引き続き、兼任講師・兼任教員及び看護学科専任教員、事務職員の参加する看護教育懇談会を2016年3月に開催した。</p> <p>この懇談会において、本学のカリキュラム概要（教育理念・目標・教育課程編成の考え方）と各科目の位置づけ、各教員の教育実践と学生の学修状況について共通理解を図り、カリキュラムの現状と今後の課題について相互理解を深めた。</p> <p>(28)</p>	

区 分	留 意 事 項 等		履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
設 置 時 (平成25年5月)	2. 実習科目について、担当する専任教員の負担に配慮するとともに、講義に支障がない時間割となるよう配慮すること。	留意事項	<p>1) 今年度の初期体験実習の担当教員については、生活支援看護学領域の専任教員4名と助手2名の他、他領域の教員も加えて10名以上の教員による指導体制を組む方向で検討を進める。来年度以降は、生活支援看護学領域の専任教員4名と助手6名（来年度採用の助手4名を加えた）の教員10名の指導体制を計画している。</p> <p>2) 実習科目について、その指導体制を整える目的で、4月10日開催の第1回看護学部教務委員会において、下部組織に実習ワーキングを設置した。実習ワーキングを中心に、実習計画についての具体的な協議、実習施設との関係性の構築、担当教員の業務負担を勘案した教員配置の検討等を進めていく予定である。</p> <p>(25)</p> <p>1) 昨年度、実習指導体制を整える目的で、看護学部教務委員会の下部組織に実習ワーキングを設置した。この実習ワーキングを中心に、2014年度以降の各領域実習の円滑な運営に向けて、実習施設との日程調整を行っている。各教員の負担への配慮、講義への支障のない時間割の編成等を行っていくために、その前段階として、新設の学部ということから、指導する教員間の指導に対する共通理解、実習施設及び実習施設の指導者との共通理解を図ることを進め、昨年度から、主に助教・助手を対象とした指導教員へのオリエンテーションを実施し、実習施設での事前研修（半日～1日）も実施した。</p> <p>加えて、実習の状況について、各施設の指導を行った担当教員から情報収集を行い、それをもとに実習施設との調整等を行っている。なお、今年度は若手教員（助教と助手）の実習指導能力の向上のために、5回に亘る若手教員FD研修会の開催を予定している。</p> <p>(26)</p>	

区 分	留 意 事 項 等	履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
設 置 時 (平成25年5月)	(前頁の続き)	<p>1) 看護学部教務委員会の下部組織、実習ワーキングを中心に、各領域実習の円滑な運営に向けて、実習施設との日程調整を行っている。各教員の負担への配慮、講義への支障のない時間割の編成等を行っていくために、指導する教員間の指導に対する共通理解、実習施設及び実習施設の指導者との共通理解を図るため、主に助教・助手を対象とした指導教員へのオリエンテーションを実施し、実習施設での事前研修（半日～1日）も実施している。</p> <p>加えて、実習の状況について、各施設の指導を行った担当教員から情報収集を行い、それをもとに実習施設との調整等を行っている。</p> <p>なお、2014年度は若手教員（助教と助手）の実習指導能力の向上のために、5回に亘る若手教員FD研修会を開催した。各研修会のテーマは以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・（第1回）看護学部の教育理念と目標、カリキュラムの理解と自己の課題 ・（第2回）看護教育における倫理的な課題の理解、自己の職業倫理の考察 ・（第3回）実習指導の経験の振り返りと自己の課題の明確化 ・（第4回）「看護過程」授業の概要理解と共有化 ・（第5回）一年間の振り返りと評価 <p>(27)</p>	

区 分	留 意 事 項 等		履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
設 置 時 (平成25年5月)	(前頁の続き)		<p>1) 看護学部教務委員会を中心に、各領域実習の円滑な運営に向けて、実習施設との調整を行っている。各教員の負担への配慮、講義への支障のない時間割の編成等を行っていくために、指導する教員間の指導に対する共通理解、実習施設及び実習施設の指導者との共通理解を図るため、主に助教・助手を対象とした指導教員へのオリエンテーションを実施し、実習施設での事前研修(半日~1日)も実施している。</p> <p>加えて、実習の状況について、各施設の指導を行った担当教員から情報収集を行い、それをもとに実習施設との調整等を行っている。なお、3・4年次において実習科目を多く開設していることと共に、またこれまでの実習の状況を考慮し、平成27年度・平成28年度に実習施設を追加し、担当する専任教員の負担、講義に支障がない時間割となるようにしている。(施設の追加に伴う看護師学校の実習施設の変更については実習実施前にいずれも申請を行い承認済み) (28)</p>	

区 分	留 意 事 項 等		履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
<p>設 置 時</p> <p>(平成25年5月)</p>	<p>3. 入学者選抜方法が11種類と多様であり、スポーツ推薦など学力試験を課さない選抜方法もあることから、多様な選抜方法が混在することによって入学後の学修に支障が生じないよう履修指導等に配慮すること。</p>	<p>留意事項</p>	<p>1) スポーツ推薦入学試験については、看護師学校指定申請の審査において、当該試験の実施について意見があったこともあり、再度検討を行い実施しないこととした。これに伴い当該試験において募集する予定であった定員4名については、指定校推薦入学試験の定員に振替え、指定校推薦入学試験の定員を26名に変更した。</p> <p>2) 理科の学力検査を課していない一般入学試験前期日程(2科目型)及び推薦入学試験を受験した学生のうち高等学校で生物学や化学を履修していない者に対して、入学時の教務オリエンテーション及び学科指導において生物学及び化学の知識の必要性を説明し、共通科目で開設している「生物学」、「化学基礎」を履修するよう指導した。</p> <p>3) 新入生全員に入学時に基礎学力確認テストを行い、一定の基準を満たさなかった学力不足の学生に対して基礎学力育成講座(正課外)の受講を推奨した。</p> <p>4) 学生の大学生活を支援する目的で、専任教員による看護学部アドバイザー制度を設けた。専任の教員がアドバイザーとなり少人数の学生グループを担当し、グループ活動を通じて学生の大学生活への適応を助けるとともに(授業の出席状況を確認し、必要時はアドバイザー教員から出席を勧奨するなど)、学生一人ひとりの学修上の悩みや問題の相談に応じる。各アドバイザーグループの初顔合わせを4月9日に行った。今後は毎月1回を原則にアドバイザーグループ活動を実施する計画である。</p> <p>(25)</p>	

区 分	留 意 事 項 等		履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
設 置 時 (平成25年5月)	(前頁の続き)		<p>1) 昨年同様、理科の学力検査を課していない一般入学試験前期日程(2科目型)及び推薦入学試験を受験した学生のうち高等学校で生物学や化学を履修していない者に対して、入学時の教務オリエンテーション及び学科指導において生物学及び化学の知識の必要性を説明し「生物学」、「化学基礎」を履修するよう指導した。</p> <p>2) 新入生全員に入学時に基礎学力確認テストを行い、一定の基準を満たさなかった学力不足の学生に対して基礎学力育成講座(正課外)の受講を推奨した。受講生の出席状況を確認し、必要時はアドバイザー教員から出席を勧奨している。</p> <p>3) 昨年度から、専任教員による看護学部アドバイザー制度を設け、このアドバイザーグループ活動において、学生の学修等の支援をおこなっている。</p> <p>4) 今年度から指定校推薦入学試験による入学予定者を対象とした入学前準備教育を実施した。(26)</p>	

区 分	留 意 事 項 等	履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
設 置 時 (平成25年5月)	(前頁の続き)	<p>今年度も引き続き、以下の対応をおこなった。</p> <p>1) 理科の学力検査を課していない一般入学試験前日程(2科目型)及び推薦入学試験を受験した学生のうち高等学校で生物学や化学を履修していない者に対して、入学時の教務オリエンテーション及び学科指導において生物学及び化学の知識の必要性を説明し「生物学」、「化学基礎」を履修するよう指導した。</p> <p>2) 新入生全員に入学時に基礎学力確認テストを行い、一定の基準を満たさなかった学力不足の学生に対して基礎学力育成講座(正課外)の受講を推奨した。受講生の出席状況を確認し、必要時はアドバイザー教員から出席を勧奨している。</p> <p>3) 指定校推薦入学試験による入学予定者を対象とした入学前準備教育(英語、国語、生物、化学を課している)を実施した。(27)</p>	

区 分	留 意 事 項 等		履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
設 置 時 (平成25年5月)	(前頁の続き)		<p>今年度も引き続き、以下の対応をおこなった。</p> <p>1) 理科の学力検査を課していない推薦入学試験を受験した学生のうち高等学校で生物学や化学を履修していない者に対して、入学時の教務オリエンテーション及び学科指導において生物学及び化学の知識の必要性を説明し「生物学」、「化学基礎」を履修するよう指導した。</p> <p>2) 新入生全員に入学時に大学生基礎力確認テストを行い、一定の基準を満たさなかった学力不足の学生に対して基礎学力育成講座（正課外）の参加を推奨した。受講生の参加状況を確認し、必要時はアドバイザー教員から出席を勧奨している。</p> <p>3) 指定校推薦入学試験による入学予定者を対象とした入学前準備教育（英語、国語、生物、化学を課している）を実施した。(28)</p>	
設 置 時 (平成25年5月)	<small>(その他大学全般に関する事項)</small> 4. 工学部物質生命科学科の入学定員超過の是正に努めること。			工学部物質生命科学科は、工学部の改組に伴い、平成25年4月から学生募集を停止し在学生の卒業を待って廃止する計画であるため、定員超過を是正することが叶わぬこととなった。 (25)

区 分	留 意 事 項 等	履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
設 置 時 (平成25年5月)	(その他意見) 「療養支援看護学」区分において、実習名称が「成人看護学実習」となっていることについて、学生が混乱しないようシラバスやガイダンスでその趣旨が伝わるよう説明がなされることが望ましい。	入学者に配付する履修要綱に、看護学部の教育課程の編成、特色等について、授業科目区分ごとに記載し説明するとともに、履修指導において「療養支援看護学」区分の実習名称が「成人看護実習Ⅰ」、「成人看護学実習Ⅱ」、「成人看護学実習Ⅲ」であることについての説明を行った。さらに春学期開講の専門科目「看護の知への誘い」(必修)の最終回の講義で、履修要綱に記載した教育課程と指定規則との対比表に基づいて、療養支援看護学の区分と成人看護学(指定規則の教育内容)との関連について説明する予定である。加えて、3年次春学期に実施する成人看護実習Ⅰのオリエンテーションにおいても、科目区分と実習名称について説明する予定である。(25)	

区 分	留 意 事 項 等	履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
		<p>今年度も入学者に配付する履修要綱に、看護学部の教育課程の編成、特色等について、授業科目区分ごとに記載し説明するとともに、履修指導において「療養支援看護学」区分の実習の名称が成人看護実習Ⅰ、成人看護学実習Ⅱ、成人看護学実習Ⅲであることについて説明を行った。さらに春学期開講の専門科目「看護の知への誘い」の最終回の講義で、履修要綱に記載した教育課程と指定規則との対比表に基づいて、療養支援看護学の区分と成人看護学（指定規則の教育内容）との関連について説明を行う。</p> <p>また、3年次に春学期に実施する成人看護実習Ⅰのオリエンテーションにおいて、科目区分と実習名称について説明する予定である。(26)</p> <p>昨年度に引き続き、入学者に配付する履修要綱に、看護学部の教育課程の編成、特色等について、授業科目区分ごとに記載し説明するとともに、履修指導において「療養支援看護学」区分の実習の名称が成人看護実習Ⅰ、成人看護学実習Ⅱ、成人看護学実習Ⅲであることについて説明を行った。さらに春学期開講の専門科目「看護の知への誘い」の最終回の講義で、履修要綱に記載した教育課程と指定規則との対比表に基づいて、療養支援看護学の区分と成人看護学（指定規則の教育内容）との関連について説明を行う。</p> <p>また、3年次春学期6月に実施する成人看護実習Ⅰのオリエンテーション（4月23日開催）において、科目区分と実習名称について説明をおこなった。(27)</p>	

区 分	留 意 事 項 等		履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
			<p>昨年度に引き続き、入学者に配付する履修要綱に、看護学部の教育課程の編成、特色等について、授業科目区分ごとに記載し説明するとともに、履修指導において「療養支援看護学」区分の実習の名称が成人看護実習Ⅰ、成人看護学実習Ⅱ、成人看護学実習Ⅲであることについて、さらに春学期開講の専門科目「看護の知への誘い」の最終回の講義で、看護学部教育課程と指定規則との対比表に基づいて、療養支援看護学の区分と成人看護学（指定規則の教育内容）との関連について説明を行っている。加えて、3年次春学期6月に実施する成人看護実習Ⅰのオリエンテーションにおいて、科目区分と実習名称について説明を行っている。 (28)</p>	
設置計画履行状況 調 査 時 (平成26年2月)	該当なし			
設置計画履行状況 調 査 時 (平成27年2月)	該当なし			

区 分	留 意 事 項 等	履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
設置計画履行状況 調 査 時 (平成28年2月)	既設学部等（法学部法 学科）の定員充足率の 平均が0.7倍未満と なっていることから、 学生確保に努めるとと もに、入学定員の見直 しについて検討するこ と。	改善意見	<p>学生確保に努めるべく、 2016（平成28）年度の学生 募集において、全学的な募 集活動とともに、例年に加 え学部独自の広報にも力を 入れた。また、2016年度の 新入生から修学地を小田原 から金沢八景（横浜市）に 変更（在学生については、 2017年度に全員変更）する こととし、このことも併せ て広報をおこなった。</p> <p>2016（平成28）年5月1日時 点において、入学者数は、 入学定員330人に対して、 347人（入学定員超過1.05 倍）であり、定員の確保は なされた。</p> <p>次年度（2017(平成29)年 度）は、加えて、学部改組 により、新学科を設置する こととしており、収容定員 1,320人（入学定員330 人）のうち、404人（入学 定員100人、3年次編入学定 員2人）を新学科の定員に 振替え、法学科の定員は、 804人（入学定員200人、3 年次編入学定員2人）に変 更（減少）する。</p> <p>上記のとおり、新学科の設 置に向け、2015(平成27) 年10月に「認可又は届出」 の事前相談を行い、届出に よる設置「可」の結果を得 ており、現在5月末に設置 の届出を行うべく準備を進 めている。当該学科の設置 に伴い、法学科の入学定員 を330人から200人に減じ る。（28）</p>

- (注) ・ 「設置時」には、当該大学等の設置時（認可時又は届出時）に付された留意事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る留意事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入し、報告年度を（ ）書きで付記してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該設置計画履行状況調査の結果、付された意見に対する履行状況等について、具体的に記入するとともに、その履行状況等を裏付ける資料があれば、添付してください。
 - ・ 定員管理に係る留意事項への履行状況は、指摘を受けた学科等についてのみ記入してください。
 - ・ 該当がない場合には、「該当なし」と記入してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査時」の（年月）には、調査結果を公表した月（通常2月）を記入してください。（実地調査や面接調査を実施した日ではありません。）

7 その他全般的事項

<看護学部 看護学科>

(1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
<p style="text-align: center;">実習施設60施設</p>	<p>設置時に留意事項として 「実習科目について、担当する専任教員の負担に配慮するとともに、講義に支障がない時間割となるよう配慮すること」との指摘等を踏まえ、また、本学看護学部として2016年度に4年次生全員（78名）を対象とした実習を行うことから、実習施設の充実を図るため、平成27年度に新たに13施設から受入れの承諾を得た。今年度における実習施設は、昨年度増加した15施設を含め、計88施設となっている。</p>

- (注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。
- ・ 設置時の「設置の趣旨等を記載した書類」の項目に沿って作成し、それ以外の事柄については適宜項目を設けてください。（記入例参照）

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD活動含む）

<p>① 実施体制</p> <p>a 委員会の設置状況</p> <p>全学的な体制：大学FD支援委員会を設置し、全学的取り組みとして、授業公開、学生に対する授業評価アンケート等を実施していたが、2013（平成25）年4月から関東学院大学高等教育研究・開発センター（以下センター）が設置されたことに伴い同センターにおいて実施する。 （関東学院大学高等教育研究・開発センター（規程 別紙））</p> <p>学部における体制：関東学院大学看護学部FD委員会（規程 別紙）</p> <p>b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）</p> <p>全学的な状況：センターの運営組織として、FD推進部会、キャリア教育部会、カリキュラム・マップ検討部会、SD推進部会を設置した。</p> <p>学部における状況：2015年度 第1回看護学部FD委員会：2015年4月22日（水）参加者（5名） 第2回看護学部FD委員会：2015年5月27日（水）参加者（5名） 第3回看護学部FD委員会：2015年7月15日（水）参加者（5名） 第4回看護学部FD委員会：2015年9月16日（金）参加者（5名） 第5回看護学部FD委員会：2015年11月18日（火）参加者（4名） 第6回看護学部FD委員会：2016年2月10日（水）参加者（5名） 第7回看護学部FD委員会：2016年3月9日（水）参加者（5名）</p>

c 委員会の審議事項等

2015年度

第1回看護学部FD委員会

1. 2015年度活動計画案について
2. 2015年度予算要求案について
3. 公開授業について

第2回看護学部FD委員会

1. 2015年度FD研修会（案）について
2. 授業改善に向けた実践報告（個人）シートについて
3. 教育能力向上に関する各専門領域における実践報告シートについて
4. 2015年度FD委員会活動計画について

第3回看護学部FD委員会

1. 2015年度FD研修会（案）について
2. 授業改善に向けた実践報告（個人）シートについて
3. 教育能力向上に関する各専門領域における実践報告シートについて
4. 教育改革ICT戦略大会への参加について

第4回看護学部FD委員会

1. 看護学部FD委員会規程改正（案）について
2. 第3回FD研修会について

第5回看護学部FD委員会

1. 授業改善に向けた実践報告（個人）シート及び教育力向上に関する各専門領域における実践シートの提出方法及び締切りについて（2015年度活動報告書作成に向けて）

第6回看護学部FD委員会

1. 2015年度看護学部FD委員会活動報告書の作成について

第7回看護学部FD委員会

1. 2015年看護学部FD委員会活動評価について

② 実施状況

a 実施内容

- 全学的な状況：① 関東学院大学 全学FD・SD講習会（新任教員等対象）
② 関東学院大学 全学FD・SDフォーラム
③ 高等教育セミナー

学部における状況：2015年度第1回看護学部FD研修会
2015年度第2回看護学部FD研修会
2015年度第3回看護学部FD研修会
学外FD研修

b 実施方法

全学的な状況：

2015年度

- ① 関東学院大学 全学FD・SD講習会
 1. 本学のFD・SDへの取り組み状況
 2. 講演「関東学院大学生に産業界が期待する能力とは」
 3. グループワーク「本学が育成すべき人材像は、どのようなものか？」
- ② 関東学院大学 全学FD・SDフォーラム
 1. アクティブラーニングの実質化
- ③ 高等教育セミナー
 1. カリキュラムを“可視化”する方法—マップ・フローチャート・ナンバリング等の一体的理解へ—

学部における状況：2015年度第1回看護学部FD研修会

- ・武蔵野大学教員による講演の聴講

テーマ「カリキュラムの再構築に向けて ～武蔵野大学での取り組みから～」

2015年度第2回看護学部FD研修会

- ・科研費獲得者による申請に向けた準備、研究計画書の作成方法等実例とポイントを学ぶ

テーマ「科研費獲得推進のために 「科研費をとろう！」

2015年度第3回看護学部FD研修会

- ・各領域担当教員からテーマに基づく説明と共有化

テーマ「看護過程（授業、実習）に関する情報交換会

～各看護学領域の授業目標・授業内容・到達度～

学外FD研修

- ・ファカルティ・デベロッパー養成講座in京都に2名参加
- ・今どきの学生・若者の“やる気スイッチ”を押すコーチングスキルに1名参加
- ・今こそ教員組織の教育力を高める ～FDマザーマップの自律的な展開方法～ に2名参加

c 開催状況（教員の参加状況含む）

全学的な状況：

2015年度

- ① 2015年4月29日（水）13：00～16：30 参加者：49人
- ② 2015年9月2日（水）15：00～17：00 参加者：208人
- ③ 2015年11月14日（土）13：00～16：30 参加者：64人

学部における状況：2015年度第1回看護学部FD研修会 2015年7月31日（金）15：00～17：00 参加者31人

2015年度第2回看護学部FD研修会 2015年9月16日（水）16：30～16：50 参加者28人

2015年度第3回看護学部FD研修会 2015年10月21日（水）16：15～17：15 参加者30人

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

2014年度の授業改善アンケート結果を受けて、各教員は担当する科目（1科目以上）の授業改善に向けた実践報告（個人）シートを作成し、2015年度看護学部FD委員会活動報告書に掲載し、全教員に配付した。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

全学的な体制により実施しており、授業評価アンケート調査は、7月および1月に実施した。

b 教員や学生への公開状況、方法等

アンケート集計結果については、各担当教員へ配布し、次年度の授業に反映させる。

また、集計結果を基に、実施報告書と大学全体の総括的報告書にまとめ学内で公開する。

平成27年度も前年度同様に「春学期看護学部・学生による授業改善アンケート報告書(概要版)」を作成。教職員に配付し、併せて学生に対しては学内Web、図書館、教務課・学生支援室閲覧コーナーで公開している。

(注)・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

(3) 自己点検・評価等に関する事項

- ① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見
別紙のとおり
- ② 自己点検・評価報告書
- ・既設の学部等については、2013(平成25)年度に大学評価(認証評価)申請を行い、当該申請に併せて作成した。
 - ・また、2012年度自己点検・評価より、毎年、自己点検・評価を実施し、構成員に外部委員を含めた大学評価委員会で、大学の改革・改善に向けた客観的な評価を行っている。
 - ・看護学部については、2014(平成26年)年度に作成した報告書を大学ホームページに掲載した。
- a 公表(予定)時期
- ・2015年3月1日 公表
- b 公表方法
- ・自己点検・評価報告書を大学ホームページに掲載し、学内各部署、修了生、在学生、希望者が閲覧できるようにする。
 - ・大学ホームページ上に公開
- ③ 認証評価を受ける計画
- ・既設学部等については、2013(平成25)年度に新大学評価システムのもとで自己点検・評価を実施し、大学基準協会へ大学評価の申請を行った結果、評価基準に適合しているとして下記の期間を認定期間として認められた。次回は、2020(平成32)年度に同評価機関の評価を受ける予定である。
- 認定期間：2014(平成26)年4月1日から2021(平成33)年3月31日
- ・なお、看護学部については、2020(平成32)年度に評価機関(大学基準協会)の評価を受ける予定である。

(注) ・ 設置時の計画の変更(又は未実施)の有無に関わらず記入してください。
また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。
なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(4) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書

- a ホームページに公表の有無 (有 無)
- b 公表時期(未公表の場合は予定時期) (2016 年 6 月 30 日)

別紙

設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

設置認可時の計画に沿った形で、平成25年4月1日の開設から、「主体的に考え行動することができ、保健、医療、福祉の現場において適切な看護ケアを提供できる実践的な看護能力を身に付けた人材や、患者・家族にとって適切な医療を効率的に提供するため、チーム医療の調整役としての能力を身に付けた人材を育成する。」（設置の趣旨）という目的の達成に向け、完成年度を迎えている。

以下、その履行状況について具体的に報告する。

ア. 教育課程の編成

教育課程について、当初計画した全ての科目を開講している。年次進行に伴い入学者の状況、学生の履修及び学習状況などが概ね把握できており、専任教員の交代等に伴う、授業運営方法等において修正を行う必要が生じたが、支障なく運営できている。

また、3年次からの実習に関連する実習施設を充実させるため、2014（平成26）年度に15施設、2015（平成27）年度に13施設を追加し、実習施設は計88施設としている。

イ. 教員組織の編成

設置計画では、専任教員を21人としており、2013（平成25）年度に19人、翌2014（平成26）年度に2人の計21人全員が、計画通り就任した。

しかしながら、2014（平成26）年度末に、教授、准教授、助教のそれぞれ1名が退職、また、2015（平成27）年度末に教授1名が退職した。

これらを受け、2014年度退職者の後任として、准教授2名、講師1名、2015年度末退職者の後任として、教授1名を新規採用した。（いずれもAC教員審査済）

また、この後任採用とは別に、教育研究の向上を図るため、助教2名を新規採用した。（AC教員審査済み）

以上の状況から、現在の教員組織の構成は、教授9人、准教授5人、講師2人、助教7人の計23人となっている。

ウ. 履修指導

新入生に対する履修指導については、2015年度から全学統一の日程で行うこととなり、2日間で行っている。また、開設時からアドバイザー制度に基づいて、1グループ10人程度に担当教員2名体制でサポートを行っている。加えて、学修の進め方に対して相談ができるよう、全教員がオフィスアワーも設定している。

在学生に対する春学期オリエンテーションの履修指導において、4年次生には第4年次配当の実習科目の履修要件について、2・3年次生には第3年次配当の臨地実習科目

の履修要件とともに、臨地実習科目を履修しようとする学生は定期健康診断や予防接種等を受けなければならないことを説明した。

エ. 施設・設備等

年次進行により、今年度の入学者 111 人を加え在籍学生数は 348 人（2016 年 5 月 1 日現在）であり、当初の計画どおりの施設において、支障は生じていない。

なお、機器備品、図書、学術雑誌、電子ジャーナルについても計画通り整備を行っている。

オ. 入学者選抜

2016 年度は、推薦入学試験、一般入学試験、大学入試センター利用入学試験等を実施した結果、991 人の志願者のうち 915 人が受験し、359 人が合格、入学定員 80 名に対して入学者は 111 人で、入学定員超過率は 1.38 倍であった。また、開設年度からの平均入学定員超過率は 1.11 倍である。

カ. 実習（臨地実習）の具体的計画

(1) 実習先との連携体制

2015 年度の 2 年次春学期の生活援助実習 I（9 月初旬）については、指導教員対象の説明会及び実習施設（4 病院）の実習指導者対象の説明会を 6 月～7 月に行い、実習病棟打ち合わせ（教員研修）を 7 月～8 月に行った。2 年次生対象のオリエンテーションを 7 月に実施した。実習終了後に実習施設ごとに実習指導の振り返りの会を実施した。

2015 年度の 1 年次秋学期の初期体験実習（9 月下旬）については、指導教員対象の説明会及び実習施設（3 病院）の実習指導者対象の説明会を 6 月～7 月に行い、実習病棟打ち合わせ（教員研修）を 9 月に行った。一年次生対象のオリエンテーションを 7 月に実施した。実習終了後に実習施設ごとに実習指導の振り返りの会を実施した。

2 年次秋学期の老年看護実習 I（2 月中旬～下旬）については、実習指導担当教員対象の説明会及び実習施設（13 施設）への説明会と打ち合わせを 10 月～1 月にかけて行い、2 年次生対象の老年看護実習 I のオリエンテーションを 1 月に実施した。

2 年次秋学期の生活援助実習 II（2 月中旬～下旬）については、1 月から 2 月初旬にかけて教員対象の説明会及び実習施設（4 病院）の実習指導者対象の説明会、病棟打ち合わせ（教員研修）を行った。2 年次生対象のオリエンテーションを 1 月に実施した。実習終了後に実習施設ごとに実習指導の振り返りの会を実施した。

2015 年度の 3 年次春学期の、成人看護学実習 I（6 月）、老年看護学実習 II（6 月）については、実習施設への説明会と病棟打ち合わせ（教員研修）を、2 月～5 月にかけて実施し、3 年次生対象のオリエンテーションを 5 月に実施した。

3 年次秋学期の成人看護学実習 II、小児看護学実習、母性看護学実習、精神看護学実習、老年看護学実習 III、在宅看護学実習 I については、7 月～9 月に実習施設への説明

会と打ち合わせ及び教員研修を実施した。また 3 年次対象の秋学期実習オリエンテーションを 7 月に実施した。

2015 年度 3 月に本学看護学部教員と臨地実習指導者による実習報告会（臨地指導者研修会）を開催した。2015 年度の実習状況の全体報告の後、各領域毎の実習報告および意見交換会を行い効果的な学生指導について共有した。

2016 年度 4 年次春学期の成人看護学実習Ⅲ（7 月）と在宅看護実習Ⅱ（7 月）については、5 月～6 月に実習施設への説明会と打ち合わせ及び教員研修を行う予定である。

キ. 社会的・職業的自立に関する指導等及び体制

教育課程内の取組みとして、全学共通のキャリア教育として、2013 年度には 1 年次配当の「KGU キャリアデザイン入門」、「KGU キャリアデザイン基礎Ⅰ」、2014 年度には 2・3 年次配当の「KGU キャリアデザイン基礎Ⅱ」、2015 年度には 2・3・4 年次配当の「KGU キャリアデザイン応用Ⅰ」、3・4 年次配当の「KGU インターンシップ実習」を開講し、社会的及び職業的自立を図るために必要な能力を培うことをはかっている。

なお、2016 度からは、地域に関する理解を推進するため、1・2・3・4 年次配当の全学共通科目「KGU かながわ学」（全 9 科目）を開講している。

以上